

わが家の庭には山茶花やま  
りよりの樹木がある。ま  
んりよには赤い実がびっしりと実  
る。その実を求めて小鳥たちが  
やって来る。山茶花の花の蜜を  
吸いにはメジロがやって来る。  
メジロだけはつがいである。夫  
婦仲がいい。ガラス越しにそれ  
らを眺めていると飽きない。  
もちろん、本のアイデアも練  
っている。津川雅彦さんにはい  
ろいろな女優さんを紹介して頂  
いた。十朱幸代さんは愛犬家で

あった。いっばいの犬の写真を  
見せて頂いた。若き日の後藤久  
美子さんも美しい人だった。ど  
の女優さんも素敵だったが、浅  
丘ルリ子さんだけは別格であつ  
た。津川さんと3人で料亭の会  
食であつた。中学、高校時代か  
ら銀幕で観ていた女優さんであ  
る。緊張した。小林旭の渡り鳥  
シリーズは一本も欠かさず観て  
いた。渡り鳥のラストシーンは  
祭りである。ふと気が付くと旭  
がいない。浅丘ルリ子は慌てて  
港まで追っかけるのだが、旭は  
すでに船の上である。浅丘ルリ  
子は「信次さん」と絶叫する。

## 無駄な事を考える

船の信次はギターを弾いて歌つ  
ている。「潮の匂いがする街は、  
どこも俺には故郷さ」  
そうだ、信次とは次男坊の名  
前である。さすらうのは次男坊  
であつた。「どこへ行くのか次  
男坊鳩」という歌もあつた。  
信次も土地に根付いて浅丘ルリ  
子と結婚すればよきそうなもの  
であるが、さすらいの旅にでる。  
「寅さん」の映画でも浅丘ルリ  
子だけは特別扱いのようであつ  
た。キャバレーで唄を歌うリリ  
子の役である。小説家の娘、吉  
永小百合さんやお寺のお嬢さん  
とは寅さんも失恋して当然の感  
頂けるとすれば、どんな本を書

けばいいのか。つがいのメジロ  
を観察しながら、そんなことを  
考える。物書きは十中八九、無  
駄な事を考える。

「韋駄天の記」も取りあえず最  
終回である。せひ「知覧にて」の  
撮影記も書きたいものである。  
伝えたいことがどれほど伝わっ  
たのかともどかしい。それでも  
120回、2年越しで書かせて  
頂いた。韋駄天のように駆け巡  
った2年越しであつた。しかし、  
劇作家という仕事が多様な仕事  
か、映画のシナリオはどう書く  
のか、少しでもわかって頂けれ  
ば有り難い。「知覧にて」が劇場  
に掛かったら覗いて頂きたい。  
そして、監督岡部耕大の名を確  
認して頂ければ。(松浦市出身)  
〓おわり